

平成26年8月広島土砂災害への派遣

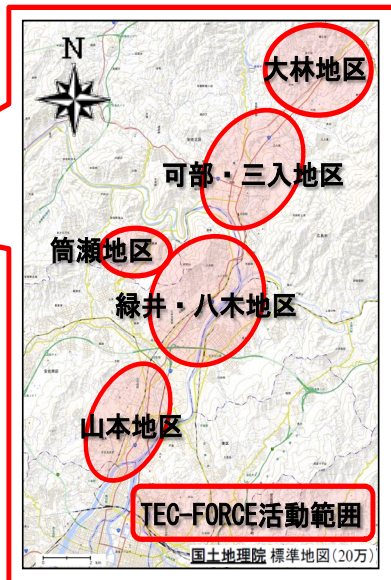
○8月19日から大雨を受けて、広島市では166件の土砂災害（土石流107件、がけ崩れ59件）が発生し、多数の住宅が飲み込まれる甚大な被害（死者76名：平成27年12月16日17時30分現在）が発生。

○災害発生直後から、広島県及び広島市ヘリエゾンを派遣。また、災対ヘリによる被害状況把握を実施。

○全国の地方整備局等からTEC-FORCEと災害対策用機械等を派遣し、土砂災害危険箇所の評価・捜索活動の支援、早期復旧のための支援、二次災害防止のための支援を実施。

➢ TEC-FORCE：最大140人派遣（8月28日）、のべ2,523人・日派遣（8/20～9/23）

➢ 災害対策用機械（照明車、衛星通信車等）：最大18台派遣（9月4～5日）、のべ約590台・日派遣（8/20～10/30現在）



安佐南区と安佐北区の被災状況



約2週間で324溪流を緊急点検し危険度を評価



捜索活動の安全確保のための点検



市道等に堆積した土砂を約1ヶ月で撤去

▼派遣元別派遣人数（のべ人数）

